

第34回都市計画審議会の意見・質問と方針一覧

No.	委員	頁	意見・質問	市の考え方
1	岡野	41	道路利用についての説明が佐倉インターチェンジが中心だが、志津地区や臼井地区の人は四街道インターチェンジを使用しているため、それを視野に入れたまちづくりをしてはどうか。	<p>市域西部の市民は車での市外への移動に主に四街道インターチェンジや千葉北インターチェンジを使用していることは認識しています。本計画において「近隣自治体に所在する鉄道駅を含め、拠点へのアクセス向上について検討」する旨の記載に、近隣自治体の道路とのアクセス向上についての視点を加えます。</p> <p>P41 (1)道路（文言追加） 「近隣自治体に所在する鉄道駅や道路を含め、～アクセス向上について検討します。」</p>
2	若狭	41, 66	成田空港から印西などを經由して国道16号までつながる北千葉道路の整備が県で都市計画決定された。成田空港から東京までの最短ルートとなるため、北千葉道路の整備に合わせて、北部自治体との交通ネットワーク強化が必要ではないか。	<p>道路整備について、北千葉道路の整備を踏まえた南北の軸の強化の視点を取り入れます。（3・4・29岩富寺崎線の整備のほか、主要地方道佐倉印西線の整備について、県と連携する旨を追記します。）</p> <p>P41 ■国県道の改良・整備（項目追加） 「○ 佐倉市と北総地域を南北に結んでいる主要地方道佐倉印西線については、交通アクセスの向上を図るため、早期整備に向けて取り組みます。」</p>
3	犬塚	42	コミュニティバスの拡充による公共交通空白地域の解消はいいことだが、税負担などの理由で減便するなど、不便なものとなるおそれがある。どの程度税負担を考えた上での拡充かということを確認したい。	<p>コミュニティバスは7月運行開始予定の飯重寺崎路線を加えた5つのルートとなり、一団の公共交通空白地域はなくなる予定です。</p> <p>公共交通空白地域での利用者数の大幅な向上は難しいため、路線の維持による財政的な負担は大きいですが、なるべく便数を減らさない方向で運行をしていきたいと考えています。</p> <p>（計画案の修正なし）</p>
4	密本	44, 48	自然災害の対応について多くの記載があり、グリーンインフラについての言及もあるが、CO2の排出抑制や生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）について都市計画上の配慮についてどのように考えているか。	<p>CO2の排出抑制につながる取り組みについては、自然環境の保全や、自家用車から公共交通への転換などによる方針を示しています。</p> <p>自然環境の防災・減災での活用については、グリーンインフラを活用した治水対策について多角的に研究を進める方針を示しています。</p> <p>自然環境が気候変動対策や防災・減災に寄与することについて、都市環境の中で明示し、保全に取り組みます。</p> <p>P44 (1)自然環境（文言追加） 「これらの自然は、気候変動の対策に寄与するほか、～防災・減災や良好な都市環境の形成、都市の低炭素化に大きな役割を果たしています。」</p>

No.	委員	頁	意見・質問	市の考え方
5	犬塚	98	<p>空き家・空き地対策が今回の見直しでは重点的に扱われている。和田・弥富地域以外では主要課題として記載がある中で、和田・弥富地域には記載がないが、どういう理由によるものか。</p>	<p>空き家・空き地問題は市全体の問題としてとらえています。和田・弥富地域においては、農村集落、地域コミュニティの衰退の課題の一部として、空き家について記載し、地域コミュニティの活性化に取り組む方向で考えています。</p> <p>P98 ■農村集落の活性化（文言追加） 「農業従事者の高齢化、後継者不足、<u>空き家</u>や耕作放棄地の増加などといった問題に対応するため、農村環境を維持し、<u>地域コミュニティ</u>を活性化する必要があります。」</p>